

## ■ 国営事業等事後評価「庄内あさひ地区」の紹介

### ■ 直轄地すべり対策事業「庄内あさひ地区」（山形県鶴岡市（旧朝日村））

#### 【事後評価の目的】

国営土地改良事業等については、事業完了後おおむね5年を経過した地区を対象に、より一層の効果発現のためのフォローアップを行うこと等を目的として「事後評価」を実施しています。

#### 【庄内あさひ地区について】

「七五三掛（しめかけ）地すべり防止区域」に指定されている庄内あさひ地区は、平成21年に地区内の一部で発生した地すべり活動により、農地やライフライン等に甚大な被害が生じたほか、大規模な地すべりに発展する可能性が確認されました。

このため、本事業では、想定された地すべり被害が甚大であることから、地すべり活動の再発防止や優良農業地域を有する庄内平野への被害を未然に防ぐことを目的に、平成22～30年度にかけて排水トンネル工や集水井工、承・排水路工などの整備を行いました。



庄内あさひ地区



農地の被災状況（H21）



道路の被災状況（H21）



事業により整備された集水井工

出典：「直轄地すべり対策事業「庄内あさひ地区」事後評価基礎資料」

#### 【国営事業技術検討会（事後評価）】

東北農政局では、事後評価の実施に際し、学識経験者等の専門的知見を活用するため、国営事業技術検討会（事後評価）を開催しています。

令和7年7月に開催された本地区の技術検討会では、「地すべり防止施設の整備により地すべりの発生要因である地下水位が低下し、地すべり活動が抑制、本地区及び下流域約1万haの農業生産の維持や農業経営の安定に寄与していることが認められる。」等の意見が出されました。



技術検討会による現地調査（R7.6）

### ■ 小学校の環境学習会「ざっこしめ」に参加

酒田市立松原小学校で6月5日と9月9日に実施された環境学習会「ざっこしめ」に当事務所が参加しましたので、その概要について紹介します。

#### 【実施概要】

「ざっこしめ」（「小魚捕り」の意）は、地域の自然や生きものについて学ぶことを目的として、松原小学校の4年生の総合学習の時間に実施されている環境学習会のことです。酒田市内を流れる小牧川での生きもの採集と採集した生きものの特徴を調べて観察する活動が行われています。環境学習会を実施する小牧川は生活排水等の流入により、過去には「山形県内で最も汚れた川」となっていましたが、国営事業地区内の農業用施設で取水した用水の排水先を平成19年度に一部変更し、環境用水として河川に導水して水質改善につなげる全国初の取組が行われた場所でもあります。この取組等により水質が徐々に改善され、現在にわたって地域の環境を学ぶ場として役立てられています。

当日は児童や学校関係者、講師を務める生涯学習コーディネーターのほか、県や市、土地改良区、地域の協力者などが多数参加しており、活動のサポートをしていました。全体で行った追い込み漁と班別の採集とで約1時間活動し、アユやモクズガニなど数種類の生きものを見つけることができました。小牧川での採集終了後は学校に戻り、児童は班ごとに生きものの特徴や生態を図鑑で調べながら、観察を行っていました。

両日とも児童の皆さんはお互いに協力しながら採集に活発に取り組んでおり、生きものを見つけるととても嬉しそうにしていたのが特に印象的でした。

#### 【環境学習会（まとめ）について】

今年実施したざっこしめの振り返りをするために、10月15日に環境学習会のまとめの会を行いました。会では「小牧川とわたしたちの暮らし」をテーマとして、小牧川を流れる水と生きもの・農業とのつながりや、かつて県内で最も汚れた川と言われた小牧川が魚の棲める川になるまでの地域の取組について説明を行いました。児童からは小牧川に生息している魚の種類についての質問がたくさん挙がり、興味深く耳を傾けている様子でした。

当事務所では、調査地区における環境啓発活動の推進に引き続き取り組んでいきます。



生きもの採集  
(追い込み漁)の様子



採集した生きもの（アユ）



学校での観察の様子



まとめの会の様子

## ■ 「国営赤川二期地区 ICTモデル事業」の紹介

当事務所では、ICT水管理モデル事業赤川二期地区（第2弾）計画に基づき、山形県酒田市広野地内において、ICT（情報通信技術）を活用した「スマート水管理」システムを導入したモデル事業を実施しています。

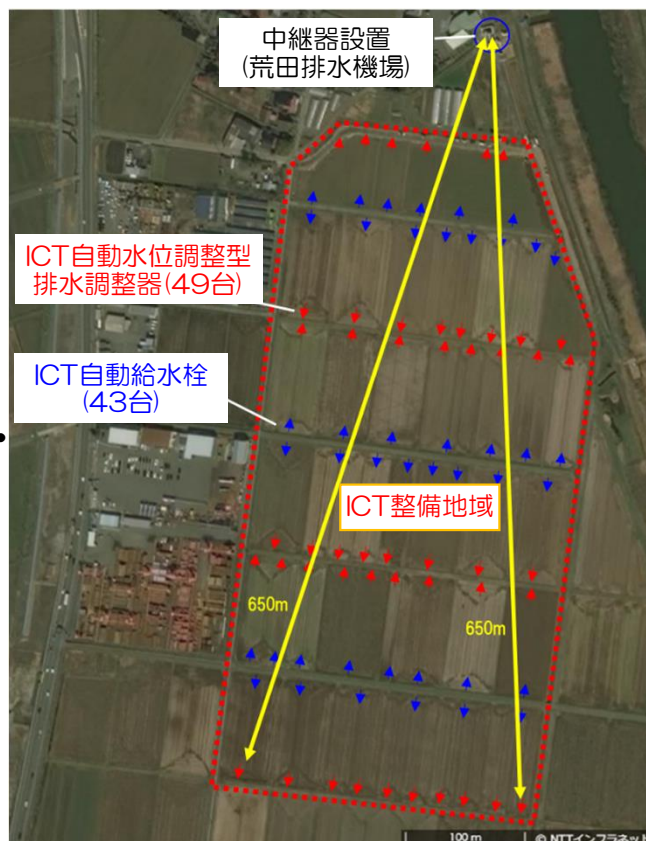
### 【ICT水管理モデル事業（第2弾）の概要】

経営体育成基盤整備事業広野地区（H24～R4）にて地区内全線を低圧パイプライン化、各ほ場水口に給水栓を設置した酒田市広野地内（荒田地域）の水田約13ha（48筆）において、ICT自動給水栓及び自動水位調整型排水調整器等の設置工事を令和7年度に実施しました。

従来の水管理は、耕作者が早朝や夕方に手でバルブ開閉操作を行っていましたが、ICT機器を導入することにより、水田の給水・排水操作を自宅からスマートフォンやパソコンでモニタリングしながら、遠隔操作により自動で制御することが可能となり、大いにその効果が期待されてます。

### 【事業効果モニタリングの概要】

令和8年度に代表耕作者の水管理労力、ICT機器データを収集整理し、営農経費節減効果、配水の効率性、節水効果、田んぼダム機能の検証を行います。その効果を取りまとめ、スマート農業技術の積極的な導入、普及拡大に向けて取り組みます。



国営赤川二期ICTモデル事業（第2弾）の位置及びICT自動給水栓等の機器配置計画



ICT自動水位給水栓の設置例  
（第1弾：鶴岡市湯野沢地内）



ICT自動水位調整型排水調整器の設置例  
〔(株)クボタケミックス  
「WATARAS」カタログより〕